

生物介在療法特別実習(一) (2単位)

担当者氏名 林 良博・土田あさみ

◆学習・教育目標

動物を介在した療法・活動・教育における技術、また研究方法を修得するため実習を行う。本学のバイオセラピーセンターおよび関連施設を実習の場として、対象者の評価方法と動物による身体的、精神的効果の定量化を図る手法について学び、また未だ主観的範疇の域を脱していない変動性の高い精神的影響の評価と定量化について、新たな手法による評価から本領域の研究力、創意性を身につける。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

動物介在療法	介在動物の評価	対象者評価	プログラムの評価
介在動物の選択			

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	ガイダンス	動物介在療法における研究とその手法論について言及し、実習の進め方についてのガイダンス	
2	心理尺度による対象者の評価(1)	動物との関わりがもたらす心身の影響について心理尺度を用いた評価を行う。また、こうした評価の客観性、有意性、そして問題点についてディスカッションから考察する。	人の心理変化を捉える一手段について理解を深める。
3	心理尺度による対象者の評価(2)		
4	内的反応の評価(1)		
5	内的反応の評価(2)	動物との関係における人の生理反応について心拍変動解析を用いて測定し評価の有意性、問題点について考察する。	刺激応答性を理解し、動物との関係による生理的効果を学ぶ。
6	介在動物の行動評価(1)	動物介在療法・活動・教育において介在動物の行動評価を行い、対象者の行動とおよび生理反応との関連性および介在動物の福祉的観点においてプログラム構成を考える。	特にストレス応答に関する動物の行動と、即したプログラムの進行を考察する。
7	介在動物の行動評価(2)		
8	馬の揺れ刺激の特徴(1)	馬がもつ特性、なかでも揺れ刺激に着目し、加速度計を用いてその測定と処理を行う。	動物の選択を揺れ刺激の観点から考える。
9	馬の揺れ刺激の特徴(2)		
10	脳機能活性の評価(1)	対象者の評価方法として新たな技術光トポグラフィ(近赤外線分光法)を用い、馬をはじめとした動物との関わりにおける脳機能への影響を考察する。	動物がもたらす脳への影響について定量化し、理解を深める。
11	脳機能活性の評価(2)		
12	視覚的認知と動物(1)	対象者の評価および動物による影響の定量化を図るため、視線追従システムを用いて動物による刺激の視覚的認知に対する影響を検証する。	人の視線追従を通して動物の着目点や注意、集中度の評価を行う。
13	視覚的認知と動物(2)		
14	評価のまとめ	行なってきた動物および対象者の評価を統計的にまとめ、	
15	プレゼンテーション	得られた成果のプレゼンテーションを行う。	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

その都度に紹介する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

その都度に紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

事前検討、プログラム、実践および評価に関するレポートおよび実習施設の評価を総合して行う。

◆その他受講上の注意事項

特異的な実験機器の各種取り扱いに十分留意し、データの解析から得られる情報とその論理展開に至るまでの過程において各測定の目的を常に意識しておくこと。
